

普及活動情勢報告（令和 7 年 7 月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

農業用ハウス整備の農家負担低減に向けて ～ハウス新設時の支援制度の説明～



6 月 20 日、とさし環境制御技術研究会が農業用ハウス整備に関する勉強会を開催し、生産者 26 名と県内のハウス業者 5 社が参加しました。

農業改良普及課は、ハウスを整備する際の各種支援制度の活用についての説明や、熱中症対策、労働環境整備に関する情報提供を行いました。

参加者からは、「活用する支援制度によって農家負担がどの程度違うか理解できた」、「今後規模拡大を検討しているので、国の支援制度の活用も検討したい」といった声がありました。

農業改良普及課は、今後も JA 等関係機関と連携し、園芸産地の生産基盤強化に向けて支援をしていきます。

吾北のゆず産地強化に向けて ～ JA 高知県コスモス柚子部会研修会 ～



6 月 26 日、JA 高知県コスモス柚子部会が吾北中央公民館で研修会を開催し、生産者 24 名が参加しました。

農業改良普及課は、「みんなでつなごう高吾北のゆず」を合言葉に、部会及び関係機関と協力して地域の優良ユズ園（20 園・4.3ha）の台帳化を進め、うち 25a が新たに貸借されたことを報告しました。研修では、トゲ無しユズの紹介や改植事業、施肥と収量の関係、熱中症対策、「ゆず便り」に掲載の豆知識など幅広い情報を提供しました。

参加者からは「ゆず便りをスマートフォンでも見られるようにしてほしい」との声もありました。

今後も農業改良普及課は、生産者とともに産地の維持・発展に取り組んでいきます。

キュウリの収量向上に向けて ～土佐市胡瓜部会出荷反省会～



6 月 30 日、土佐市胡瓜部会が土佐市営農経済センターで出荷反省会及び品種説明会を開催し、生産者 20 名が参加しました。

農業改良普及課は、R7 園芸年度の実証ほの調査実績について説明しました。生産者からは「DIF はやっぱり見てみんといかんね」、「データは参考になる」等の意見がありました。

農業改良普及課は、今後も JA 等関係機関と連携し、増収を目指した環境制御技術の普及に向けて活動を行います。

令和 7 年度の普及指導計画について意見交換しました
～ 第 1 回中央西地区農業改良普及推進協議会 ～



7 月 3 日、生産者代表及び関係機関等から 12 名に出席いただき第 1 回中央西地区農業改良普及推進協議会を開催しました。農業改良普及課から令和 7 年度普及指導計画について説明し、基盤整備事業の情報提供をした後、意見交換を行いました。委員からは、「全体的な課題として労働力が足りていない」、「中山間地域では高齢化が課題となっており新規就農者の確保を進めていかないといけない」、「施設コリでは球根の価格上昇により大変厳しい状況にある」等の意見が出されました。農業改良普及課は、委員から出た意見を参考にしながら課題解決に取り組んでいきます。

きたはらブランドの維持に向けて
～土佐市いちご部会出荷反省会～



7 月 14 日、土佐市いちご部会が出荷反省会を開催し、生産者 9 名が参加しました。農業改良普及課は、出荷データに基づき分析した規格別の出荷実績や単価推移の現状と課題について報告しました。また、ハウス内環境データと生育調査の分析結果から生育への影響を考察し、栽培管理改善に向けた意見交換を行いました。生産者からは、「比較データで見ることで成長につながる」、「大変勉強になった」といった意見が寄せられました。今後も農業改良普及課は関係機関と連携し、いちご部会の生産安定に向けた支援を継続していきます。

担い手確保に向けて
～高知大学農林科学部学生に高知県の農業を P R ～



7 月 15 日、高知大学物部キャンパスで、農業担い手支援課、農業イノベーション推進課、3 農業改良普及課・所とともに、高知県の農業や I o P、担い手確保に向けた取組、各産地を紹介する講座を開催し、生徒 154 人が参加しました。農業改良普及課は、各産地での就農支援体制や土佐市の新規就農者の事例等を紹介しました。生徒からは、「どのような人が農業で成功しやすいのか」、「若い世代は施設と露地ではどちらで就農しているのか」等の質問がありました。農業改良普及課では、今後も関係機関と連携して、担い手確保に向けて取り組んでいきます。